

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 5 月 11 日

事業所名 こどもデイサービスenishi(児童発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用児に合わせたスペースを作っている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%	毎月1回は振り返りをして来月の目標設定をしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%		職員に周知し業務改善につなげる
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0%	100%		意見が少なく会報では報告できていなかったが、事業所の今年度の目標など提示していくようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%	現在は外部評価を受けていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	25%	問題提起をし、研修を行っている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		利用児ができたことや目標に近づくことができたことは、管理者に報告し情報共有していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	25%	75%		事業所独自のツールを考えていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		継続していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	75%	25%	保育士で立案し、看護師で補足している。	プログラム立案に時間を要しているため、立案方法やチームでの話し合いの時間を考慮していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%	予定をカレンダーに書き込んでいる	活動の偏りがあるため、偏りのないように確認していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	50%	50%		個別活動ができていないため取り組みの工夫をする
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝のミーティングで話し合いをしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	50%	すぐに解決しないといけないう場合は当事者と振り返りを行い、次の日には職員全体に報告するようにしている	報告の漏れがないように職員で伝達方法を考える
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	75%	25%	業務日誌に記録している	細かな支援については記載できていないため、業務日誌を活用するように工夫する
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	75%	25%		モニタリングを行っているが、支援計画を元にした振り返りができていないため支援計画に沿って振り返りができるように工夫する	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		保育士も参加できるよう指導していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	75%	25%	関係機関との情報共有に努めている	職員に周知できるように伝達方法を工夫する
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	75%	25%	指示書をお願いし指示書のもと支援している	看護師が主となって連携しているが、保育士も教育の場で支援できるよう
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	指示書をお願いし、指示書のもと支援している	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%		今年度初めての移行支援をしている。相談員と連携をとり情報共有に努める
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%		移行支援が初めてなので、密に連携をとり保護者からの情報を合わせて児に合った支援を行う
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		コロナのため積極的にはしていないが、収束後は積極的に行う
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%		コロナのため積極的にはしていないが、収束後は積極的に行う
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		コロナのため積極的にはしていないが、収束後は積極的に行う
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時に情報を共有している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%		職員の知識のばらつきがあるため、学習していく
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%		職員の周知に努める
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	計画変更時には説明している	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%	送迎時や連絡帳などで相談があったときは、傾聴し助言している	相談しやすい体制をつくる
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年1回クリスマス会を行い、保護者との交流会も行っている	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	管理者に報告し、対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月1回会報を発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	説明はじゅうぶんに配慮している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	職員間で利用児の対応を情報共有している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		コロナ収束後には積極的に行う

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		防犯訓練ができていないため、今年度は計画する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に1回行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	契約時に確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師の指示書をいただいている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%		安全配慮に関して認識のばらつきがあるため、積極的に取り組めるように指導していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	0%	100%		研修に参加し、伝達講習を行う
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	25%	75%	身体拘束が必要のある時は支援計画に記載している。	身体拘束について職員の知識にばらつきがあるため、職員に周知する

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年5月11日

事業所名 こどもデイサービスenishi

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用児に合わせてスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	段差のあるところにはスロープを使用している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	2カ月毎の全体の目標を立てている	目標に対しての振り返りができていないので、毎月振り返りを行う
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%		アンケートを活用して業務改善を行っていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%		外部評価は行っていない。外部評価をおこない業務改善に努める
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	25%		問題提起をして研修を行っている 外部研修はコロナの為に参加できていないが振り返りはできている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	9	100%	0%	計画相談での計画を元に作成している	
	10	50%	50%	看護師でアセスメントを行い、職員全体に情報共有している	アセスメントツールがないため作成していく。
	11	67%	33%		保育士のみで立案しておりチームが必要。その都度看護師が介入している。
	12	75%	25%	その都度振り返りをして補足している	
	13	25%	75%	児童発達支援の活動を元に設定し、利用児に合わせた活動をしている	
	14	25%	75%		体調の変化を考慮した活動を元に、個別活動と集団活動について支援計画を作成していく
	15	75%	25%		打合せはできているが、役割分担が明確にできていないので職員の役割を認識してもらうように指導していく。
	16	25%	75%	すぐに解決する必要がある時は報告し、当事者と話し合いはできている。	支援の振り返りを職員全体で共有する
	17	25%	75%		支援での出来事は細かく記録できていないため、次の支援につなげることができていない。支援につなげることができるような記録を周知していく
	18	75%	25%		医療的ケアが多く保育士への周知ができていない為、わかりやすい説明を行っていく
19	33%	67%		ガイドラインを周知するよう指導していく	
関係機関や保護者との連携	20	75%	25%		児童に応じて保育士の参加できるよう指導する
	21	75%	25%	保護者より学校からの配布物を預かり、コピーさせてもらっている	下校時間を把握できていない時があるため、学校と情報共有する
	22	100%	0%	主治医より指示書を記載してもらっている	
	23	50%	50%		今年度初めて、幼稚園と連携をとり短期間だったが情報共有はできた
	24	75%	25%		事業所より情報提供を求められることもあると思うので準備はしているが、事業所から情報提供を求められることが少ない。前年度の卒業生は、相談支援で関わっていたため情報提供することができた。こちらから情報提供の必要を確認するようにしていく。
	25	25%	75%		連携できておらず、研修の参加ができていないので情報収集をして積極的に参加する
	26	0%	75%		保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガの観点から慎重に検討する
	27	0%	100%		参加できていない為、情報収集をする
	28	100%	0%	送迎時には利用の様子などを伝え情報共有している	
	29	0%	100%		支援できていないため、トレーニングを指導できる職員に講習会を開催してもらう

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%	契約時にわかりやすく説明している	保護者の理解を確認しながら丁寧に説明を行う
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	連絡帳や送迎時に聞き取り、助言している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		保護者会等の開催の希望があれば、対応していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応し	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月1回の新聞発行、インスタグラムで発信している	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	写真を乗せるときは確認をとっている。インスタグラムには目を隠して投稿している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	子どもの思いを尊重し、家族に寄り添う支援を心がけている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	0%	100%		コロナもあり、行っていない
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%		防犯マニュアルがない為作成し、職員と保護者に周知する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		年に1度は訓練できている。防犯訓練ができていないため、今年度は計画立案していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	0%	100%		研修の機会があれば参加し、伝達講習を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	100%		命に関わる事が予想されることがあれば、支援計画に記載し保護者に説明する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師の指示書を元に対応している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%	月1回の会議で報告し、職員で情報共有している	ヒヤリハットがあったとは申し送りの時に職員に周知している